

奈良で大仏企画報告

昨年の11月17日（日）、Beすけっと企画で奈良に行ってきました。正会員8人、介助会員12人の合計20人で電車で揺られて約1時間半。

グループに分かれて、昼ご飯を食べたり、大仏を見たり、公園を散歩したり、奈良町をそぞろ歩いたり（ここはおすすめ！）、楽しい時間を過ごせたと思います。正会員の中には施設に入居している障害者もいて、日ごろ体験できないこともみんなでわいわい出来たかも知れません。

このような企画を通じて、正会員・介助会員の交流が深めていけたら良いなと思っていますので、またみなさんも是非参加してください。

[写真あり 省略]

障害者（しょうがいしゃ）として生（い）きること

野橋 順子

私は生れつきの脳性麻痺の障害者です。手、足が不自由で車椅子に乗っています。私は小さい時から親に、『あなたはそんな身体やから人に迷惑かけたらあかん』とか、『人に何かしてもらったらあたりまえとあったらいけません。いつもありがとうという気持ちを忘れたらいけません。』という風に言われ続けて育ちました。親から言われた事というのは子供の私にとって絶対的な事のように思え、その事をいつも頭におきながら日々生活を送っていました。その影響もあって私はたえず周りの人に気を使いながら、何かしてもらったらいつも【ありがとう】の言葉を言っていました。それに人に迷惑をかけたらいけないという事で自分の出来ることは自分でやらなくてはと思い、しんどい事でも無理をして何でも自分でやるようになりました。より健全者に自分が近づこうと思っていました。障害者である自分がいやでいやでしかたがありませんでした。小、中、高と普通校に通っていてその中でも自分は障害者だから人にやってもらおう立場だから文句を言ったらいけないと思ったり、自分の本音を出して嫌われたら学校の中でやっていけないと思い自分を押し殺して人間関係を作って来ました。

でもそういう自分が少しずつ変わって行ったのが他の障害者たちとの出会いからでした。自分の事なんてほとんどできない障害者達。でもその事を少しもだめなんて思わないで自分らしく生きている姿。自分ができない事にひらきなおり、自然に人の手を借りることができる。そこには自分で何もかもできない事のひけめも何もない。その姿に私は障害者である自分を恥じることはないんだという事を思い知らされました。障害者でも健全者でもこの社会で生きていく中で人の目というものを気にしすぎると思います。そこで自分は自分やとひらきなおれる人はいいいけれど健全者とか自分のことをある程度できる障害者はもっと何かできるという強迫観念がありひらきなおる事がなかなかできない。

人の目を気にしないで自分らしく生きるということはなかなかできる事ではないけれど障害者とつきあって行く中でひらきなおりの生き方を見てもらって少しでも多くの方が自分らしく生きて行けるようになればいいのになあと思っています。

長田区に移転するゾ！

唐突ですが、Beすけっとが長田区へ移転します。

ご存じの方もおられると思いますが、経過を簡単に報告させていただき、これからのことについて、書いてみたいと思います。

震災がおきて、ひび割れた壁の事務所での活動を余儀なくされていた事務局員の耳にその情報が飛び込んできました。

と、いうのも兵庫県が「復興基金」というものを作って、被災した作業所の為にお金をくれるというものでした。

さっそく、土地の提供者を捜したところ、すぐにみつかりました。

しかしその後、借りる土地の「ようへき工事」が遅々として進みませんでした。

その間にも状況が二転三転したのですが、ようやく96年12月末に「ようへき工事」が完成し、建物建設のメドがたち、移転へととなりました。

建物の図面は別に掲載しますが、移転に伴って、これから出来ることの幅が広がりました。

その一つとして、2階部分の図面を見てもらってわかるように、居室に台所に風呂にと「自立生活体験室」がつけられます。

それらについて、これからBeすけっとに求められるものは多くなってくることが予想されます。

そこで、会員の皆さまにお願いがあるのです。

新しく移る長田で色々な企画をたてて、みんなで楽しくやりませんか？

Beすけっとの現体制の職員2名、アルバイト1名では、せっかくスペースがあるのにそのスペースが活用されません。

正会員、介助会員関わらずにこの企画に参加して下さい。

皆さんの交通費はお支払いしようとは考えています。

この企画には期限はありません、皆さまからの問い合わせを心からお待ちしております。

ページをめくると新しい事務所の図面があるよ。長田区には鹿はいませんが。

[写真あり 省略]

これが新しい「Beすけっと」ダ！！

[見取り図あり 省略]

会計より Beすけっと会員のみなさまへ

おそれいます。これが前代未聞、総会にまにあわなかった今年度の予算案でございます。

震災以後、会運営において会計面での不手際がつづき、本当に申し訳なく思っております。春の総会には万全の備えでみなさまとお目にかかれまうようにいたします。

あいかわらずの貧乏センターではありますが、今後ともなにとぞよろしくご支援おねがいたします。なおご不明の点がありましたら事務局までおたずね下さい。

運営委員 田中義一

1996年度予算案

収入の部

区分	勘定科目	額
補助金収入	地方公共団体補助金収入	5,411,000
	公益事業補助金収入	50,000
	国庫補助金収入	0
会費収入	正会員費	60,000
	介助会員費	75,000
	賛助会員費	15,000
寄付金収入	寄付金収入	1,000,000
事業収入	介助コーディネート手数料	780,000
	事務局提供介助料収入	0
	販売資料	0
事業外収入	銀行預金利息	3,000
	前期繰越金収入	6,961,971
「収入の部」合計		14,355,971

支出の部

人件費支出	職員給与手当	4,163,800
	賞与	620,000
	雑給	1,800,960
厚生費支出	法定複利費	66,000
	福利厚生費	18,000
事務費支出	旅費交通費	120,000
	研修費	85,000
	会議費	24,000
	器具備品費	36,000
		42,000

	消耗品費	
	事務用品費	
	通信費	54,000
	新聞図書費	306,000
	支払手数料	50,000
	支払保険料	60,000
	地代家賃	210,000
	貸借料	1,569,000
	水道光熱費	3,000
	車両費	120,000
	車両燃料費	60,000
	コンピュータ関係費	132,000
	租税公課	18,000
	減価償却費	2,000
	諸会費	0
		78,000
雑支出	交際費	5,000
	雑費	91,211
元利償還金	設備資金借入金償還金	722,000
積立金	人件費積立金繰入	3,900,000
「支出の部」合計		14,355,971

Beすけっと意見交流会の報告

事務局

さる1月25日(土)市立障害者センターにおいて、Beすけっと意見交流会を行ないましたので簡単に報告をします。
 今までこのような場をあまり設けたこともなかったのですが、何よりも春には長田区への移転を予定しており、色々な新しい事業に取り組む上で、広く会員の皆さんの意見を参考にしたいと考え企画しました。お知らせの発送が遅くなるなど、事務局側の不手際もあったのですが、合計20名ほどの正会員、介助会員が集まってくれ、1回目の交流会としては上々でした。

まずはじめに、ごく簡単にですが今年度の事業中間報告をしました。主に介助派遣時間実績の説明を行ないましたが、一口に言えば順調に伸びているといえます。昨年4月頃には800時間前後だった派遣時間が、年末の11月、12月にはついに1000時間を突破しました。(Beすけっと設立以来、初めて)。これは一つには「チケット研」の報告の部分にも載せているように、いつかのシステム変更をおこなったことと、数回に及ぶ介助者募集のビラまきの成果だと思われます。(手伝って頂いたみなさん、感謝、感謝)。

これまでBeすけっとといえはほとんど介助者派遣事業のみを取り組んできましたが、長田区移転、自立生活体験

室（仮称）を作るのを機会に、その他の様々なサービス、例えばピア・カウンセリング、自立生活プログラムなどに乗り出したいと考えています。そこで、まず設計図をもとにして、新しい事務所の説明をひとくさりしたあと、とりわけ正会員が体験室を使う気があるか、どのようにして使ってみたいかを話し合いました。出た意見を紹介しますと、

◎ 介護者をつれてきて一人暮らしの練習をしてみたい。

◎ もう自立しているが、その前にこんな部屋があったら使ってみたかった。自立してる障害者でも使えるのか？（基本的には大丈夫でしょう）。

◎ 施設に入居しているが、その施設内に同じような体験スペースがあって介助者を見つければ自由に泊まれる。わざわざ利用料（体験室の）払ってまで泊まるメリットはあるのか？あるとすれば、Beすけっとの体験室の売りは何か？（まさに大事なご意見です。その「売り」をみんなで考えていきたい）。

その他、体験室に泊まるときの介助者に関して、あくまで障害者本人が見つけていくべきだという原則的な立場や、本人の意見を聞いた上で応援していけば良いのでは？などなど、それぞれの障害者の介助観が反映される興味深いものでした。

結局は自立生活センターであるBeすけっととしては、地域で自立する（目指す）障害者を応援するのが基本であり、「体験室を利用することがゆくゆくは自立生活へつながっていくんだ」というような形を作れたらよいと思います。はなはだ漠然としていますが、具体的にはこれからつめていきましょう、という感じで入口までは入れたかな。あと、

◎ 一人暮らしが自立ではない

というような自立の考えの根本を問う意見もありました。「自立とは何か？」という古くて新しいテーマもまた話し合う機会を設けたいですね。

Beすけっとに対する質問・要望のコーナー。

移転サービスに関して。昨年Beすけっとはリフトカーを入手し、被災地障害者センターとの共同事業として移送サービス事業の立ち上げに取り組んでいます。といってもまだまだ試験的に運行しているという段階で、まさに勉強中です。東京都立川市のPAL立川という団体での研修もすませました。料金体系など検討中ですが、現在二ーズ調査もやっていますので、ぜひご協力ください。関心のある方は事務局までご連絡を。

24時間介助体制をとる必要がある正会員からも支援要請がありました。Beすけっとの限られた力では充分とは言えませんが、出来るだけ協力したいです。

Beすけっとの新規事業。

これまでの介助者派遣事業を一步踏みこえて、ピア・カウンセリング、自立生活プログラムなどに取り組みたい。自立を目指す障害者により一層の応援です。

自立生活センターではお馴染みの2つのサービスですが、事務局も勉強中で、うまく体験室とからめたものにしたいのです。

Beすけっとらしい自分たちの手作りのプログラムを組んでいきたいと考え、意見交流会参加の障害者も応援してくれそうです。

時間切れでこれも具体的な内容まで入れなかったのですが、とりあえず事務局の障害者を中心に毎週金曜日の午後事務所でピア・カン、自立生活プログラムに関する話し合いをやっていきます。そこで煮詰めた話を次の意見交流会2月22日（土）にあげていきたいと思います。ご注目を！

忘年会をやったよ！

昨年の暮れ、12月14日（土）に忘年会をやりました。20人以上の参加で大盛況。場所はBeすけっとの近所の「Nafsha」（ナフシャ）というお店です。ガッツくんTシャツで有名な「百番目のTシャツ」が作った喫茶店で、木造でとても落ち着ける素敵なお店。車イストイレもあり。忘年会は夜でしたが、是非お昼にこのお店をのぞいてくださいませ。穏やかなひだまりのなかタイカレーやチャイ（ミルクティー）を味わうとリラックス出来ることうけあい。

ピア・カウンセリング体験記（たいけんき）

いおくひろゆき

96年7月28日から96年7月30日の3日間東京都国立市にある国立援助為センター主催のピア・カウンセリング講座に行っていました。

たいした悩みを持っていると言うわけでもなく、単に神戸での忙しい（？）日々から逃げ出したいくて参加の申し込みをし、気がつけば国立駅を降り立った僕が居ました。

駅から会場となるスポーツセンターへはバスが出ていたのですが、バスの時間に間に合わなかった僕は歩いていこうと瞬間的に思いましたが、知らないところを歩き回るのが嫌いな僕の性格が次の瞬間はたらいで、タクシーを呼び止めて、「スポーツセンターまで」と言っていました。

会場となるスポーツセンターに着いて思ったことは、駅から数分の距離にセンターがあり、日曜日だったからかもしれないが多量の障害者がそこの体育館を利用して、バドミントンだったかテニスだったか、バレーボールだったかをしていました。

いつもそうなのか日曜日だったからなのかは分かりませんがそのセンターには多くの人たちが集まり情報交換の場として機能していました。

僕はそういう機能を持ったスポーツセンターでピア・カウンセリングの受講生として3日間過ごすことになったのです。

ピア・カウンセリングは震災前に一度と震災後に数回受けて、その感想としてはあまりよい印象は持っていませんでした。

その理由として、第一回目はあまりにも日常生活の中で顔を会わしている人たちが集まって「何をいまさら」と言う気持ちの中で行なってしまったのと、僕自身事務局としていろいろな調整で動いて疲れていたのが原因だったように今では思います。

震災後の数回のピア・カウンセリングでも結局、参加者の一人として参加することなく、受講してしまったことに反省しています。

ということで今回の参加はこの一年の疲れをいやすことを目的として参加しに行きました。

受付に行き、名札を書くときに「講座中に呼ばれたい呼び名を言って下さい」と言われ、本名で呼ばれるのは恥ずかしかったので、「Qたろうで良いです」と咄嗟に言ってしまいました。

こうして三日間、僕はQたろうとして生活することになったのですが、ピア・カウンセリングを終えて思うのですが、「愛称で呼び合う事」は自分でない自分を作り出すことが出来て、別の人格としてカウンセリングが受けれたので良かったです。

カウンセリングで出た話題はここではもちろん、皆さんにお教えすることは出来ませんが、ピア・カウンセリングという特殊な空間でみんながリラックスしていろいろなことが話し合われたことは僕にとって良い経験でした。

後一つ、良い経験だったのはいろんな地域のいろんな人と出会えたことです。

その中でも、神戸にいたら遠いと感じていた姫路から二人の女性が参加していてその人たちと友達になれたことです。

これは僕の個人的な意見ですが、関西ではまだまだピア・カウンセリングを受け入れる風土が育っていないように感じているので、これを機会に彼女たちとコミュニケーションを取り、関西とりわけ兵庫からピア・カウンセリングの輪を広げていきたいと考えました。

これは余談ですが、96年11月31日と12月1日に政策研究全国集会が神戸で開かれます。（※編集注 この集会は盛況のうち無事終了しました）

そのひとつの分科会として「若者・初心者」という場を作ってもらいました。

今、その分科会のために月一回のペースで若者研究会という集まりを持っています。

この研究会は30歳以下の障害者が集まって、これからの僕たちの生活に何が必要なのかと考える場としています。

その場も一種のピア・カウンセリングかなと思いつつ集まっています。

ピア・カウンセリングで経験した事とつながった輪をこれから大切にしていこうとピア・カウンセリングを体験して思いました。

MEMO 「ピア・カウンセリングとは！」

ピア・カウンセリングは1970年代初め、アメリカで始まった自立生活運動の中でスタートしました。

自立生活運動は、障害を持つ当事者自身が自己決定権や自己選択権を育てあい、支えあって、隔離されることなく、平等に社会参加していくことを目指しています。

ピア・カウンセリングは、その中でお互いに平等な立場で話を聞き合い、きめ細かなサポートを行います。そして地域の中での自立生活を実現する手助けをします。

（全国自立生活センター協議会のパンフレットより）

チケット研究会報告

事務局（じむきよく）

震災後、介助派遣部門の建て直しのためにチケット研究会なるものを発足し、様々な改革を行なってもらいました。

前号の「THINKING YOUR LIFE」でも紹介しましたが、その後の半年間の動きの中で決まったこともいくつかあり、実際に介助派遣の現場に生かされていますが、今回簡単に報告したいと思います。

その成果として、

- (1) Beすけっと利用カード
 - (2) 一時間一枚で介助券をきる
- が、あげられると思います。

(1) は、介助活動を行なった時に、介助会員が正会員の持っている利用カードに、日付と氏名、介助時間、交通費を記入することにより、介助料受け取りの際のミスをなくすようにしました。以前は事前にコンピュータ入力していたのですが、このカードを利用することによって、現実の動きにあわせたチェックが出来るようになりました。また、定期派遣が柱なのは同じなのですが、単発の介助依頼に対してもある程度弾力的に対応できてきていると思います。

(2) では、これまでの3時間で2枚介助券をきることから、1時間に1枚きるという大変わかりやすい方法をとることにより、正会員・介助会員に、介助派遣部門のシステムがわかりやすくなったと思います。

あとに残された問題として、「利用料金の改定」という問題があります。

ご存じのようにBeすけっとを利用する正会員が支払う利用料の内訳は、次の通りです。

介助料（750円）＋事務手数料（100円）＝利用料（850円）

このような料金なのですが、Beすけっとが設立されてから4年目をむかえ、この間介助チケット1枚の単価が60円あがりました。チケットの枚数に関しては、各家庭の収入ランクによって違いますが、0～56枚増えています。

Beすけっとの内部でも介助チケット単価が60円も上がったのに、利用料が上がらないのはおかしいという意見や、24時間介助が必要な会員からすれば、料金が上がると限られた介助券ではまかなえず、自己負担が増えて苦しいという切実な意見も出ています。

色々な意見が出て、話し合わなければいけないことがたくさんありますが、これからも議論を重ねていきたいと思っています。

介助派遣システムや、料金に関して、疑問や意見のある方はお気軽に事務局までご連絡ください。

告知板

[お知らせあり 省略]

第2回意見交流会のお知らせ

（Beすけっと IL、ピアカンを考えよう会）

皆さんこんにちは。1月25日（土）にやったBeすけっとの交流会でIL、ピアカン部分をもっと時間をかけて話そうということになりました。

そこで、2月22日（土）にまた障害福祉センターに集まりIL、ピアカンの話を主にしていきたいと思っています。

どちらも障害者がより良く生きていくために欠かせないものだと思いますが、IL、ピアカンという言葉はまだまだ皆さん聞いたことがないのでは。聞いたことがあっても多分詳しくは知らないでしょう。ですから皆が集まる中でまずIL、ピアカンってなに？からはじめてそれを基に自分たちがやりやすいように変えていったらいいと思います。障害者、健全者にかかわらずあなたは今の状態に満足していますか？この会にきて一緒に考えていきましょう。

●2月22日（土）13：00～16：30

●神戸市立心身障害者センターにて

[地図（神戸市立心身障害者センター）あり 省略]

編集後記

多くの方がその存在を忘れているBeすけっと機関誌半年ぶりの発行です。長田区への移転を控えて慌ただしい日々を送っていますが、今後はガンガン発行していこうと燃えています。原稿受付中！

[付属資料（春だ！！節分もちつき大会）あり 省略]

(c)1997 自立生活センター神戸・Beすけっと(デジタル化：神戸大学附属図書館)